

43 函館視力障害センターにおける 初期学習支援について

函館視力障害センター 教務課 河原塚 由紀 小林 好彦

1. はじめに

理療教育においては晴眼者の専修学校等と同じ教育期間を受講し、また国家試験においても同じ問題を解答することになるが、視力に応じた学習方法が確立されていないままに入所し学習を開始しなければならない利用者も少なくない。そのため当センターでは各利用者に応じた学習方法を確立し、より快適な学習環境を整えるために平成24年度から新1年生を対象に初期学習支援講座を実施している。本年度で3年目となり、改善を加えながら進めてきたプログラムもほぼ定着したので本年度実施した内容を中心に報告する。

2. 支援の内容

今年度は4月8日（火）から4月21日（月）までの2週間実施した。対象者は新1年生6名。

内容は共通科目として学習技術についての講義、パソコン、DAISY 機器の扱い、模擬授業などであり、選択科目としては点字、ロービジョン訓練となっている。その他として教官が同席しての自己学習の時間、また学習機器等の購入支援を行っている。

また、最終日にはパソコンとDAISY 機器についての技術的な評価や模擬授業をもとにした模擬試験を実施し、習得状況を把握するようにしている。そしてこの支援の最後には参加者と教官全員で話し合いを行い、それぞれの受講者が今後どのように学習をしていくのか発表し合うことによってクラスとしての集団形成を促すようにしている。

さらにこの期間中に十分習得できなかつた項目については、面接等を通してパソコン相談室（放課後に予約制で実施。原則としてマンツーマン指導。）等を受講するよう促している。

3. 支援終了後の感想

受講者に聞き取り調査を行ったところ、「DAISY 機器の使い方が習得できた。」、「模擬授業を受けてみて自分の学習方法を確認できた。」などの好意的な意見がある一方、「個人個人に合わせてやってくれたらもっと良かった。」、「途中で自分に必要ないなと思ったものは受けたくなかった。」などの不満足な意見もみられた。また意外なところでは「生活のリズムが整えられた。」と二次的なものもあった。

4. まとめ

理療教育における授業への不安はほとんどの利用者が抱えているが、初期学習支援によって学習技術のみならず、精神的にも準備ができるのではないかと考える。またある程度学習方法が決まった状態であるため、比較的スムーズに授業を開始することができる。ただし後支援が必要な利用者については今後も聞き取り調査を行必要があると考えられる。支援後の感想で個々の能力や視力に応じた支援の希望があったが、担当教官の不足等により実現が難しいためこの点が課題として残る。